

地域連合の先駆

大阪商工祭にみる文化創造

明 尾 圭 造

はじめに

昭和四五（一九七〇）、大阪は万国博覧会一色であった。当時、小学校三年生だった私は、何度も父親に万博に連れて行ってくれるよう頼んだものだ。ただ一度だけ連れて行ってもらった万博も、結局は人込みに揉まれただけで、行列の肩越しに見たパビリオンの外観しか記憶に残っていない。

以来、関西では何度も博覧会らしきものは実施されたが、いずれも訪れたことはない。子供ながらに「所詮は作り物だ」という冷めた目が備わってしまったのだ。遠目に見た各会場はあまりにも近未来過ぎて生活感がなく、大阪で言うところの「実」がない場所であったこと

だけは事実であろう。

とは言え、「人類の進歩と調和」をテーマにした大阪万博はアジア最初の万博でもあり、会期一八三日間、入場者六四二万人余に達する空前の博覧会となった。結果として大阪全体が潤ったことは確かだ。宿泊施設や商店街は言うに及ばず、様々な分野におけるインフラ効果は絶大のものがあつたろう。ただ、ここでは大阪万博を顕彰するつもりはない。

上り調子であつた経済成長が、過去の夢幻となつた今、自らの立ち位置を見失いかねないような大規模企画には、もはや興味が無い。というより時代がそれを許すまい。借り物でなく、一過性でない、地域

のアイデンティティーを根幹に据えた文化事業が今ほど渴望される時代はないだろう。その意味で地域の資本（人の和）による濃やかな文化振興を模索することが最も重要である、と痛切に思う。よって、本稿では展覧会場や単独施設に限定せず、点から面へ展開し、大阪における地域連合の端緒と思われる「大阪商工祭」を紹介したい。大阪商工会議所による発案で企画された「大阪商工祭」が昭和八年と同一〇年に二回実施されていることはあまり知られていない。初期目的は事業の継続化であったが結局は二回にとどまった。しかし、同事業の果たそうとした趣旨は、重要な問題を内包すると考える。本稿では昭和八年の第一回商工祭を中心に「大阪の大阪による大阪のための文化祭典」ともいえる同事業の詳細を顧みるとともに、その今日的な意義を考えてみたい。

一、商工祭前夜の大阪の状況

ここで、第一回の商工祭が開催された昭和八年前後の大阪の状況を見ておきたい。まず忘れてならないのは昭和六年（一九三三）の一月七日に大阪城天守閣が竣工し、合わせて大阪城公園が開園したことである。昭和三年に関一市長が御大礼記念事業として、豊臣時代の天守閣を模した大阪城天守閣復興計画を立案したことによる。建築費は市民からの募金により集められたものだが、この天守閣の復興は大阪市民に物心両面の成果をもたらした。何よりも、その基金が市民に

よる寄付であったことを我々は誇りに思うべきであろう。

さて、同一日には大阪市中央卸売市場が開場。同じく同一七日には市長選挙で関一が三選されている。翌七年一〇月三日には千日前に大阪歌舞伎座が開業。そして、実施年の昭和八年（一九三三）、二月一六日には国鉄城東線の大阪天王寺間の高架が全通し、三月二七日に大阪ガスビルが開館。五月二〇日には地下鉄梅田心齋橋間が開業（同一〇月三〇日梅田難波間全通）し、同二三日には京阪国道が開通している。これらの文化施設や交通事情の改善がもたらす状況下、大阪商工会議所により大阪商工祭は立案された。

二、昭和八年「大阪商工祭」の企画とその経緯について

昭和八年は、豊臣秀吉が初めて大坂入りした天正十一年（一五八三）より数えて三五〇年目にあたり、大阪商工会議所としても何らかの記念事業を模索したものとされる。もとより昭和六年に復興なった大阪城天守閣や、歌舞伎座、大阪ガスビルと様々な文化スポーツも整備され、人的移動の大動脈ともいえる地下鉄梅田難波間の全通が京都の「大阪魂」に火をつけたのであろう。かくして、大阪商工会議所は、商工部会の発議により、大阪府、大阪市、大阪実業組合連合会、大阪工業会、大阪商工協会、大阪実業協会と相諮り、大阪商工祭協会を設立した。そして昭和八年以降、毎年「大阪商工祭」を執行することを互いに約したのである。協会での打合せは綿密を極め、同年七月

一七日の計画立案⁽²⁾以降、商工祭直前の一〇月三十一日の予算案決議にいたるまで都合、二四回の会議を繰り返している。

会議により決定された商工祭協会とその役員は、会長の稲畑勝太郎、理事長の森平兵衛のもと、総務部（二六名）、祭典部（一四名）、行列部（三四名）、宣伝部（二五名）、会計部（一名）の体制で計画にあたった。なかでも、総務部委員長の藤井満彦、総務部の中山太一、江崎利一、中谷虎司のほか、宣伝部委員長蜂谷経一、宣伝部委員の中田辨吾、行列部委員長の児島嘉助等が中心メンバーといえたが、注目すべきは中山太陽堂（クラブ化粧品）社長中山太一が総務委員として入っていることである。彼は、東のレイト、西のクラブと喧伝されるように、化粧品業界のみならず、関西における広告宣伝の展開にかけては屈指の企業人⁽³⁾として知られる。後述するが、本商工祭における様々な事業展開は彼の発案によるものが含まれると考えられるのである。

商工祭趣意書

ここで、協会で練り上げられた商工祭趣意書⁽⁴⁾を紹介しておこう。

大阪商工祭挙行趣意書

我が大阪は豊公入城以来三百五十年経済都市として発達を遂げ今や名実ともに我国産業貿易の中樞たるに至れり

惟ふに我が大阪の今日あるは其の原由一にして足らずと雖も就

中歴世の商工先覚者が拮据経営に因るところ最も多きや論を俟たず、吾人は当市発展の現状を思ふ毎に先覚の偉業に対して敬仰の念禁ずる能はざるものあり大阪府、大阪市、大阪商工会議所、大阪実業組合連合会、大阪工業会、大阪商工協会、大阪実業協会等こゝに鑑み相諮りて大阪商工祭協회를設け本年以降年中行事として商工祭を執行し此等先覚者の英霊を合祀すると共に本市商工業発展に適切な諸事業を行ひ以てその鴻恩と遺志とに応ふる所あらんとす

冀くは諸賢奮つて商工祭挙行の趣意に冀賛せられ、以て所期の目的達成に協戮あらんことを

これによつて明らかなように、商工祭の趣旨は商都大阪における商工先覚者の顕彰にあつた。そのための祭典であり、各種事業の企画立案だつたのだが、委員会における会議を時系列に見ていくと、まさしく歴史的祭典を目指していたことがよくわかる。

時代行列の計画

まずは時代行列の企画打合せを見よう。

○行列部委員会（九月九日午前九時 於大阪商工会議所⁽⁵⁾）

一、時代風俗行列は陸上のみ之を行い、大阪城入城式を行うこととし児島委員長より京都小西大東氏に非公式に依頼したる結

果を待ちて有職故実に関する依頼者を決定することゝせり。尚町人風俗行列をも行うことゝし江崎政忠氏を通じて南木芳太郎氏に依頼することゝせり

行列部委員長の児島嘉助から依頼を受けた小西大東⁽⁶⁾（一八六九～一九四四）は大正昭和の御大礼で指導的な役割を果たした有職故実の大家で、南木芳太郎は『郷土研究上方』の編集発行を一手に引き受けた郷土研究の先達として有名である。それぞれ時代風俗行列の有職を小西大東に、町人風俗の歴史的考察を南木芳太郎に一任したのである。豊公大阪城入城は有志青年団により、江戸時代大名行列と浪花町人風俗行列は上方郷土研究会の参加により、それぞれが実施（詳細は後述）された。

○行列部委員会（九月十四日午後三時三十分 於大阪商工会議所⁽⁷⁾）

一、京都より猪熊浅麿、出雲路通次郎、猪飼囃谷、小西大東の四氏隣席せられ、商工祭武者行列に就き有職故実に関し説明あり、正式に右四氏に対し豊公入城行列衣装の製作方を依頼せり

○行列部委員会（九月十八日午後四時 於大阪商工会議所⁽⁸⁾）

一、上方郷土研究会代表者南木芳太郎氏に対し商工祭町人行列に就き一任せり（費用概算三千円）而して本月末迄に南木氏より行列正本を提出することとなれり

当初、豊臣秀吉の大坂城入城などの風俗行列については小西大東に一任していたことは前掲の通りだが、さらに『有職源氏鑑』等の著作で知られる有職故実の研究者猪熊朝麿、京都市下御霊神社社司にして京都帝国大学や竜谷大学で有職故実を教えた出雲路通次郎（一八七八～一九三九）、谷口香に師事し歴史画を中心に文展で活躍した猪飼囃谷（一八八一～一九三九）等を正式に行列衣装の製作方に依頼した。京阪に於ける有職故実の権威が集結した形だが、商工祭の花形事業である豊公行列にかける思いの強さが感じられる。

また、猪飼囃谷には武者行列姿六枚組（図版1～7）の絵葉書原画も合わせて依頼している。すなわち、豊公、豊公馬印、豊公鎧櫃、大名、供侍、茶人・雛子方・狂言方・能太夫の六枚（昭和十年には豊公女儀列、田楽の二枚が加わり八枚セットとなる）一組が調整され協賛会会員に配られたが、残部は調整元である大阪堺筋の栗本印刷本店から一般に向けて発売された。

一方で、町人行列を一任された南木芳太郎について、最近翻刻された『南木芳太郎日記』⁽⁹⁾に関連記載があるので、ここで紹介しておこう。

昭和八年十月十日「商工会議所の藤井氏より電話、絵ハカキを頼む旨と大名行列追加予算承諾（四、五百円）の話あり」

十月二十日「午後一時、団道理・花橘・鶴之介・和田四郎・佐藤為来り、風俗行列人員紹介する。

団道理・花橋

三十六人

鶴之介・和田兩人にて

四十九人

佐藤為・駕や・女共

二十人

百五人

扇野住吉踊

約二十人

佐藤君と住吉谷屋衣装店に行き主人に面会、絵巻を渡し置く。

予記 風俗行列役割あて相談会、午後早々開くこと。…

十月二十二日「…（午後）一時前、辞して自動車にて大念仏（元町二丁目）に行き、駕幸に逢ひ大行列の駕を観る。佐藤為氏へ立寄り小道具屋へ出来栄えを観に行く。…」

十月二十三日「午後一時過ぎ住吉谷屋衣装店に行き、…」

十月二十五日「朝十時過ぎ谷口へ行き校正を渡し、絵ハカキ及刷物の校正をして、商工会議所へ行き打合せをする。…」

十月二十六日「朝九時、大阪商工会議所へ行き、町人風俗行列の着付予習をする。集るもの約百人。十六名程度の扮装を写真にとる。…」

十月二十八日「…朝九時、団道理・花橋・鶴之介・和田四人来る。打合せ行列扮装人の順番を作る。…」

十月三十日 廿八日分誤記。…（午後）十二時前、商工会議所に行き、女風俗の扮装を見る。…再び会議所に返り、女風俗の写真（髷を主とせる写真）、大毎写真部撮影す。」

ここに見られるように、南木芳太郎が上方郷土研究会の数名と諮り、行列の構想を練り上げ、衣装風俗には適宜指導を入れながら着付けや写真撮影など人念な準備が見て取れる。

日記には商工祭以外にも講演会やラジオ出演、寺社参詣等が散見され、多忙な中での参加であったことが解る。この時期、南木は自ら主催する月刊誌「郷土研究上方」の編輯も抱えるなど、複数の仕事と同時に進行で動いている状況が続いており、その調整は困難を極めたことであろう。

広報宣伝について

各種祭事に関連して市内各所での協賛事業も盛りだくさんであった。

○宣伝部各商店街代表者懇談会（九月十二日午後四時 於大阪商工会議所⁽¹⁾）

懇談事項

一、商工祭の執行は中小商工業者繁栄の一方策として計画せられたものなるに就き、各商店街に於て記念大売出催物等に関し努力せられ、所属団体及親睦会の各会員によく其主旨を徹底せしめられたきこと

時代行列に合わせて心齋橋筋、戎橋筋、松屋町筋、天神橋筋、浄正橋筋、九條新道などでは一一月二日に「協賛大売り出し」の大幟を押

し立てて⁽¹⁾商工祭景気を盛り上げた。これは、一〇月三〇日に地下鉄御堂筋線梅田難波間が全通したことも大きかったと思われる。また、高島屋（南海・長堀）、松坂屋（日本橋）、大丸（心齋橋）、阪急（梅田）、三越（高麗橋）などの百貨店でも特売などの協賛事業を展開した。

商工先覚者の選定と祭典

従前の趣意書によって明らかのように、商工先覚者の顕彰が商工祭のメインイベントであつたことを思うとき、その対象者の選定は重要であつた。協会から依頼を受けた、大阪商科大学教授菅野和太郎は、当初十九名（九月十八日）を推薦したが、会議を経て十五名の先覚者が決定（十月五日）された。

○祭典部委員会（九月十八日午前十一時 於大阪商工会議所⁽²⁾）

一、大阪商科大学教授経済学博士菅野和太郎氏より大阪商工先覚者石丸定次、末吉孫左衛門、淀屋辰五郎、天王寺屋五兵衛、殿村平右衛門、鴻池新六、住友友芳、薩摩屋仁兵衛、山片蟠桃、草間伊助、河村瑞賢、安井道頓、茨木屋又左衛門、檜皮屋孫左衛門、薬屋甚左衛門、五代友厚、磯野小右衛門、藤田傳三郎、廣瀬宰平等の諸氏に關しその略歴功績に就て解説を加えたる後、商工先覚者選定に關しては今後とも会議を開き審議することとせり

○祭典部委員会（十月五日正午 於大阪商工会議所⁽³⁾）
決議事項

一、商工先覚者は左記十五名を確定せり

末吉孫左衛門、淀屋个庵、山中新六、天王寺屋五兵衛、石丸定次、住友友芳、殿村平右衛門（初代）、五代友厚、藤田傳三郎、田中市兵衛、松本重太郎、磯野小右衛門、廣瀬宰平、土居通夫、山邊丈夫

一、大阪商大教授経済学博士菅野和太郎氏より右先覚者十五名の詳細に亘る経歴の説明ありたり

選考の結果、確定した先覚者の概略は以下のとおりである。

「…貿易業者として早々外国に渡航された末吉孫左衛門氏、諸候蔵米の販売を一手に引受け米、魚、青物の大阪三大市場の勃興を促がした淀屋个庵氏、清酒醸造の鴻池初代山中新六氏、大阪両替屋の鼻祖で手形の案出をせられた初代天王寺屋五兵衛氏、東町奉行で十人両替を設け、金相場所を創められた石丸定次氏、別子銅山を発見せられ貨幣改鑄に功績のあつた住友家四代吉左衛門友芳氏、江戸浪花貿易増進に功勞あり江戸為替を始められた殿村家の初代平右衛門茂述氏、…維新後官吏として又実業家として活躍され、大阪商法会議所を創設して、其会頭となられた五代友厚氏、藤田組を設けて鉱山事業を始め、各種の事業を起された男爵藤田傳三郎氏、銀行船会社其他各般の事業を創

め、市政界にも尽力せられた田中市兵衛氏、私設鉄道、モスリン紡績等を創設せられた松本重太郎氏、株式取引所、米穀取引所を創設し理事長として盡された磯野小右衛門氏、住友家の事業を今日あらしめた廣瀬宰平氏、大阪電燈株式会社を創立し、二十年有余年間大阪商業会議所会頭として盡された土居通夫氏、紡績会社を設立して終始其の事業の発展に努められた綿業界の恩人山邊丈夫氏⁽¹⁴⁾の十五名である。

この十五名に対して、昭和十年の第二回商工祭では、以下の六名⁽¹⁵⁾が新たに加えられた。

道頓堀を開鑿せられた安井道頓氏、安治川の開鑿者で治水工事に幾多の功績を残された河村瑞軒氏、有名な儒者経済学者で町人薰陶に功績のあつた懷徳堂字主中井竹山氏、幕末国政に参与し、大阪府知事として令名あり、築港事業の発端を作られた子爵渡邊昇氏、銀行業界で活躍し大阪貯蓄銀行を創立し、また諸会社銀行の社長に歴任せられ、大阪財界発展に盡された外山脩造氏、明治の初頭海外貿易に従事し我国に於ける直輸入貿易の基礎を築かれた日下部平次郎氏

当初の推薦者であつた山片蟠桃⁽¹⁶⁾、草間伊助⁽¹⁶⁾が外されているのは個人的に惜しい気もするが、昭和八年では見送られた河村瑞賢や安井道頓が、第二回商工祭（昭和一〇年）では復活している。もとより、商工

先覚者の顕彰が主目的ということもあり、大阪城天臨閣西側庭前に祭壇が設けられ、商工の祖神大国主命、事代主命を祀り、昭和八年には齋主の官幣大社生國魂神社宮司により修被大麻行事、鹽湯行事などが行われた。なお、昭和一〇年には齋主が天満宮宮司、副齋主が官幣大社住吉神社禰宜以下、祭員二十八名により祭典が行われている。こうして、各種委員会による審議を受け、趣意書の精神のもと商工先覚者の選定や時代行列、各種協賛事業などの主な行事日程が定まつた。すなわち、十一月二日の前日祭、同三日の本祭（明治節でもあつた）、同四日の翌日祭だが、その詳細は左記のとおりである。

三、商工祭の実施

大阪商工祭行事日程⁽¹⁷⁾

第一日—十一月二日（木）

1、前日祭（午前九時）大阪城公園天臨閣西側広場に於て祭壇を設け厳肅なる降神鎮座の祭典を執行

2、商工祭記念商工業大講演会（午後一時中之島中央公会堂）

司 会	理 事	後藤忠三
開会の辞	理事長	森平兵衛
大阪商工業界発達の回顧	前図書館長	今井貫一

- 商業大阪の進路 大阪商大教授 村本福松
 東南洋貿易と大阪 同 浅香未起
 電気と大阪 大阪帝大教授 青柳栄司
 大阪と鉄鋼業 同 井口庄之助
 十字路に立つ世界経済 大阪朝日 飯島幡司
 民衆の都会 大阪毎日 下田将美
 閉会の辞 総務部委員長 藤井満彦
- 3、大阪全市の大売出
 商工祭期間中は本会マーク(図版8)及び商工祭提灯の装飾を施した大大阪商店街は何れも商工祭協賛大売出し等を行ふ。又平野町筋商店街は本会の商工祭マーク佩用者に対しては一割引をする筈である。蓋し全市は全く殷盛を極むる商工都市を現出するのである。
- 4、各種同業組合の提灯行列
 第一日の夜は各種同業組合約一万人の提灯行列が大阪商工会議所前を出発して大阪市役所前を経て大阪府庁前に至り大阪城大手前公園に於て解散する予定である。
- 5、花火の打揚(中之島公園)
 商工祭第一日は中之島公園に於て花火を打揚げる。
- 第二日—十一月三日(金曜) 明治節
- 1、本祭

大阪城公園祭典場に於て午前十時より商工祖神並物故先覚者を合祀し参列者には商工大臣、清浦圭吾伯、先覚者遺族、師団長、在阪貴衆両院議員、近府県知事、市長、會議所会頭、本会役員等約二千名の予定である。

2、商工祭行列

A、本会主催行列

- 一、豊公入城武者行列(百三名、青年団員)
- 二、大名行列(四十三名、上方郷土研究会員)
- 三、町人行列(百三十名、上方郷土研究会員)

B、各種団体主催行列

- 一、大阪商工協会広告自動車行列(参加数百五十代)
- 二、大阪酒類商同業組合自動車行列(参加数三十二台)
- 三、大阪木炭協会自転車行列(参加数百台)
- 四、大阪帽子同業組合行列(二千名)
- 五、大阪肉商同業組合行列(百五十名)
- 六、大阪洋服商同業組合行列(百名)
- 七、大阪菓子商同業組合行列(五百名)
- 八、大日本連合少年団(千名、但し大阪城より信濃橋まで参加)

以上の行列出発時間並に行列コースは左の如くである。午前九時出発正午大阪城、午後四時天王寺公園(雨天順延)

往路 商工会議所出発—堂島北町東へ—大毎前南へ—大朝—肥

後橋北詰東へ—市廳—公会堂—難波橋北浜二丁目東へ—
 天満京阪前—偕行社前南へ—府廳前—大阪城
 歸路 大阪城—馬場町西へ—本町筋—信濃橋南へ—四ツ橋—湊
 町賑橋東へ—日本橋二丁目—上本町六丁目南へ—椎寺町
 —天王寺西門西へ—天王寺公園

但し参加花自動車並に自動車隊は何れも主催行列の先駆をなし本行列と同コースを進行するが、天王寺西門より別路をとつて大阪全市を行進する筈である。

3、商工祭記念祝賀会

第二日の夜は中央公会堂に於て本市知名の商工業者を招待して商工祭記念大祝賀会を開く。

4、大阪全市の大売出

5、花火の打揚

第二日は昼夜に亘り中之島公園に於て花火を打揚げる。

6、空中遊覧飛行

当日午前九時より木津川飛行場に於て日本航空運送会社主催の下に大阪市上空遊覧飛行を行ふ。

7、全市小学生旗行列

第二日は明治節式典後商工祭旗行列を全市の小学生在が行ふ筈である。

第三日—十一月四日（土曜）

1、翌日祭（午後三時）

大阪城公園祭典場に於て昇神の祭典を執行する。

2、青年団の提灯行列

3、大阪全市の大売出

4、花火の打揚（中之島公園）

以上は商工祭期間中のプログラムであるが、大阪市内の町内会、花街等の方面に於ては屋台其他の商工祭協賛催しが三日間を通じて挙行され、船車等の割引も行はれる。又全市は掲揚して経済都市大阪を祝し、各百貨店に於ける催物、各商店街の大売出し等は我が国経済の中核たる我大阪を如実に展開せしめ、全市は鼎の沸くが如き賑ひを呈するであらう。

これを見ると大阪全市をあげての大祭典であつたことが伺える。祭典部や行列部、宣伝部による事前調整のたまものだが、祭典に伴う各種協賛事業が興味深い。大阪商工会議所はもとより、大阪府、大阪市、大阪実業組合連合会、大阪工業会、大阪商工協会、大阪実業協会などの大同団結があつて初めてなしえることであつたと言えよう。初日の前日祭には昼夜を問わず各種事業が遂行された。なかでも行列の先駆をなした花自動車（図版9）や全市の協賛大売出し、空中遊覧飛行などは中山太陽堂がクラブ化粧品の宣伝広告で多用した手法でもあり、総務委員であつた中山太一の影響が考えられるのである。また、初日に実施された花街での協賛¹⁸は華々しい歴史絵巻のようであつた

し、時代行列の光景（図版10・16）は天下茶屋の俳人、入江来布によって「商工祭讃」¹⁹に活写されている。

事業予定の変更とその実際

予定された事業計画は従前のとおりだが、浅香宮妃殿下薨去により会期二日目の十一月三日の本祭は、御哀悼のため事業の変更があった。なかでも南木芳太郎ら行列部や宣伝部が苦心惨憺した商工祭行列に關しても、行列周辺部での鳴り物の停止は勿論、午前九時商工会議所を出発し、正午に大阪城を経由して午後四時に四天王寺に至るコースであったものが、中継地点であった大阪城をもって打ちきりとなつたほか、花火の打揚、日本航空による空中遊覧散歩、全市小學生の旗行列、中之島中央公会堂における大祝賀会などが中止となつた。勿論、花街にも抑制はかつた。堀江、新町は本祭、後日祭ともに静肅を条件に行列が許可されたが、南地、北陽その他の各所では無期延期となつた。ただ、初めての商工祭行列見たさに押しよせた見物人は十万人に近かつた²⁰という。市民の商工祭に寄せる思いの強さが推し量られる。

ここで、必ずしも計画通りとはいかなかつたものの、南木が力を注いだ浪速町人行列の内訳を見てみると、

浪速町人風俗行列（上方郷土研究会参加）²¹

1、門礼者（新年風俗）2、町家主人（上下着用一本差）3、供

（供廻り下男）4、大黒舞（正月風俗大黒の面を冠る）5、猿廻し（正月風俗）6、傀儡師（正月風俗）7、萬歳（萬歳・才蔵二人）8、鳥追（女三人）9、春駒10、ちよろけん（三人）11、懸想文（水干烏帽子梅の枝に懸想文）12、羽子板売13、茶筌売14、廻り髪結15、越後獅子（三人）16、寺子屋入（親・子供・丁稚）17、被初（宮詣り風俗十人）18、鉄輪使19、反魂胆売20、開帳詣（三人）21、市中水売22、簾売23、和中散ぜさい24、甘酒屋25、心太売26、吹玉屋27、烏丸枇杷葉湯28、羽織紐直し29、ほづらく売30、たすき売31、花売32、町飛脚33、手車売34、天満の飴売35、鼠取葉売36、唐辛子売37、元結びんつけ売38、堺包丁売39、杉山膏藥40、古傘売41、瀬戸物焼接屋42、太神樂（三、四人）43、鳥差44、油売45、貸本屋46、曆売47、鏡研ぎ48、医者（供付）49、宗匠（俳諧乃至茶道）50、大工（三、四人）51、按摩52、銭さし売53、湯でさや豆売54、角力勝負附売55、閑取（弟子附）56、花柳風俗（旦那・芸妓・舞妓・女將・幫間七、八人・仲居）57、駕屋（二人）58、齒拔屋（二人）59、花車売60、乳母と女中（商家風俗の一）61、錠前直し62、火消63、神道者64、町方遊山風俗（主人・女房・娘・丁稚）65、住吉踊（約二十五人）

となつており、さながら動く町人時代絵巻の感がある。なかには売

り口上の準備として各種楽器も用意していたと思われ、南木の無念さは如何ばかりであったことであろう。

さらに、中止となった中央公会堂における祝賀会でも、その「設備は大阪ホテル、大洋軒より見積をとることとし、料理折詰は堺卯、つる家、魚岩、魚利、天狗、はり半、南菱富、丹彌、岸松、魚市に注文決定、酒瓶詰は澤の鶴、菊正宗、白鶴に決定せり。」⁽²²⁾とあることから市内の有名どころを総動員しての祝宴であったことも誠に以て惜しい気がする。

一方で、商工祭に協賛する催し⁽²³⁾を紹介すると以下のとおりである。

…就中長堀橋高島屋では本会協賛、大阪府、市後援の下に「商工祭記念大阪大繁盛展覧会」(長堀店)を十一月二日より同月十二日まで催し、大阪繁盛史に関する菊人形大場面を電動装置にて現わし、更に商工先覚者並びに十人両替、各市場、商工組合及び在阪旧家より大阪繁盛に因む文献、器物等を展観した。日本航空飛行会社では乗客百名を限り大阪市上空一周の祝賀飛行を行い、大阪商船、摂陽商船、土佐商船、宇和島運輸尼崎汽船、阿波国共同汽船の各社では九州、四国、山陽方面からの旅客に対し十月二十五日より十一月十日まで商工祭協賛運賃二割引を為し、松竹会社では大阪商工祭協会会員券を発行して歌舞伎座、浪花座、中座、角座、松竹座、朝日座、弁天座、文楽座、公楽座の各劇場入場者

に対し十一月二日より十一月十日に亘って、各等二割引を行った。…尚町内会、卸売及小売連合会等も夫々協賛の催を行った。…平野町商店街に於ては商工祭バッジ着用者に対しては一割引の売出しを為した。大阪中央放送局は祭典、行列の盛況を全国に放送する予定であったが、浅香宮妃殿下薨去のためご遠慮申し上げた。松竹キネマ及新聞社では商工祭実況を撮影しニュースとして各劇場で即夜上映した。

冒頭に記した高島屋「大阪大繁盛展覧会」は、商工祭期間中に大阪城天守閣にて実施された「商工祭先賢者遺品展覧会」⁽²⁴⁾とリンクするものである。これこそ官民合致の企画のなせる技であろう。この点、今日に通用するところ大であると考えるが、このことに関しては後述する。さて、自肅により中止となった事業には大阪新聞で募集された懸賞歌「大阪祭の歌」⁽²⁵⁾の街頭演奏などもあった。これらも含めて、昭和十年には復活したものもあるが紙面の都合上、今回は触れることをしない。要は、様々な可能性を内包した商工祭の何たるか、ここでは初回の商工祭の概要を紹介するに留めた。会期終了後の十二月八日、商工祭協合理事会において可決承認された商工祭の経費収支計算⁽²⁶⁾を掲載することによって、商工祭全体の実態を見ていただきたい。

収入をみると、大阪府市は仲良く共に五〇〇〇〇円であるのに対し、商工会議所は会議所としては三〇〇〇円だが、商工祭協会を中心とした協賛金が三三一五〇円を計上し、全体予算の四九五五九円に対

商工祭経費収支計算

収入の部		
第一款 補助金	一三四〇〇円	府五〇〇〇円、市五〇〇〇円、会議所三〇〇〇円、工業会・商工協会・実業協会・実業組合連合会各一〇〇円
第二款 協賛金	三三一五〇円	協賛会補助金
第三款 雑収入	三〇〇九円二九銭	商工祭マーク売上利益金二八五一円八一銭、絵葉書版權一〇〇円、商工祭場賣錢、絵葉書、小旗売却代
計	四九五五九円二九銭	
支出の部		
第一款 祭典費	四六六四円二銭	神具、神饌料八四五円二五銭、設備二三〇八円二七銭、雇人及謝礼七三八円、供物四〇〇円、其他三七二円五〇銭
第二款 行列費	一八六三八円七〇銭	時代行列二二五六円五〇銭、大名風俗行列二五六一元九〇銭、謝礼一〇〇〇円（小西外三先生）、一五〇円（猪飼先生）三〇〇円（南木先生）、青年団補助金二一〇円、行列発着場設備二四二円五〇銭、其他一六一〇円八〇銭
第三款 宣伝費	五五〇〇円三一銭	ポスター、發送用紙二六七九円六〇銭、同配布及広告料（市電立看板）一四三九円五四銭、セロファンポスター五五六円四〇銭、商工祭旗四五六円七〇銭、花火・飛行宣伝ビラ一二七円九〇銭、其他二四〇円一七銭
第四款 祝賀会費	四三五〇円五六銭	祝賀会料理折詰・酒代三八九円五〇銭、会場準備費一九九円六銭、新聞広告代二五二円
第五款 総務部費	七四九四円一〇銭	
第一項 事業費	二六九円一五銭	会場設備五七円五四銭、講師謝礼二二一円六一銭
第二項 給与報酬	一四六七円三七銭	臨時雇給・所員居残手当六八六円九七銭、慰労金六三二円五〇銭、謝礼・筆耕・速記料・看守一四七円九〇銭
第三項 通信運搬費	八〇五円六銭	商工祭案内郵税三六〇円、衣裳展覽通知一七八円五〇銭、其他通信費二四五円二六銭、市電・自動車二二円三〇銭
第四項 備品消耗品費	二三五円八銭	事務用品、保管庫、役員徽章、炭、茶、其他

第五項	印刷費	一三六四円六八銭	商工祭次第書三五四円五四銭、先覚者略伝四八四円、会則役員名簿・祝賀会・展覧会案内状其他五二六円一四銭
第六項	参加行列費	一〇六八円	行列観覧所設備八〇〇円、郵便局バラック六〇円、城内茶飲場一〇〇円、其他一〇八円
第七項	雑費	二二八四円七六銭	商工祭紙旗及配達料五八五円二銭、絵葉書代六四〇円五〇銭、提灯行列費一六一円二九銭、行列衣裳展観設備三五〇円、活動フィルム一〇〇円、其他四四七円九五銭
第六款	集会費	五九八円四銭	関係者招待 委員長其他集会并当
第七款	予備費	〇円	
第八款	雑費	二二二〇円七八銭	
第一項	雑費	七八〇円四八銭	商工祭マーク懸賞金一六〇円、行列参加青年団負傷者治療・見舞金二七二円九五銭、其他三四七円五三銭
第二項	各部并当食費	一四四〇円三〇銭	行列部八三七円五〇銭、祭典部三〇九円、総務・宣伝・会計部二九三円八〇銭
総計		四三四六円五一銭	
差引残高	金六〇九二円七八銭也		

未払勘定予算

一金	一二〇〇円	商工祭関係者招待及贈呈記念品代
一金	一五〇〇円	記念誌代、同発送費
一金	三〇〇円	新聞記者招待費
一金	三〇〇円	同業組合主事招待費
一金	三〇〇円	小口支払準備
計金	三六〇〇円	
差引金	二四九二円七八銭也	後期繰越

して三六一五〇円と約七〇パーセントを占めており、実質上の商工祭主催者であったことがあらためて確認された。支出に目を転じれば、

祭典、行列、宣伝費の中で行列費の占める割合は圧倒的で、他事業の実に三倍以上を計上している。これを見ても商工祭は秀吉の大阪入城

を記念した時代行列に最も主眼をおいていたことが解るのである。

四、大阪商工祭の今日的意義について

戦時色が強まる直前、大阪における官民挙げての最初にして最後の文化事業が大阪商工祭であった。継続化を旗印にすすめたものの翌年（昭和九年）に室戸台風による未曾有の大災害のため第二回目が昭和十年に順延された。さらにそれ以降も継続にむけて調整はあったと思われるが、戦時体制へと突き進む世情では、それは許されることではなかったであろう。

本祭は豊臣秀吉の大阪入城三五〇年を記念し、商工先覚者の顕彰を主眼とする事業であった。こうした周年事業は、今日でも盛んに実施されるもので、スローガンが明確な分、協賛依頼も進めやすい利点がある。ただ、前述したように商工祭初回の昭和八年は、大阪城天守閣の再建や地下鉄御堂筋線の梅田難波間の全通など事業に着手する基盤が整った絶好の時期であったことが重要だ。この前提があつて、商工祭協会を中心に大阪府と大阪市ならびに各種団体の協賛も合間つて大規模な祭事となつたのである。ここに象徴されるのは、各団体に流れる郷土大阪に対する懐古と愛情ではなかったか。

具体的には、地下鉄による移動を促進し、降り口に集中する百貨店での関連事業を全ての店舗で実施する。また、復興成つた天守閣で展覧会を開催すれば、長堀橋高島屋が関連展示で受けて立つ。市内各所

の商店街では、特売日を設け、集客に余念がなく、時代行列を見学したあとは花街での催しや花火見学など一日を通して市民を飽きさせることがない。この一体感と高揚感はどうであろう。

自治体が前面に出れば、様々な障壁が立ちほだかり、面白いと解つていても手が出せぬこともある。その点、大阪商工会議所が中心となり、商工祭協会が実質的な推進役になればこそ、実現できた事業でもあつた。翻つて今日の大阪には様々な文教施設があるが、いずれもが点でしか存在し得ず、事業予算も単独施設の企画ごとに充当されるのが現状だ。すなわち、それぞれのセクションが孤立した存在でしかないのである。

例えば、博物館の展覧会を例にとつても、単館での集中展示だけではなく、市内各所に拡散して展示出来れば、市民の見る機会は格段に増えるだろう。もはや、地点移動の導線も含めたインフラ整備が重要視される今日、面としての大阪商圏の可能性を無視するのはあまりに無策に過ぎよう。単館単独企画での予算増加が見込めぬ現在、面的に展開する事業計画を打ち立てるのもこれからの企画担当者の努めであろう。

大阪商工祭の今日的意義、それは、大阪という場所に限定した固有の文化事業の推進に関して、官民の垣根を払い、もてる資産を最大限に活用するというものではなかったか。文化事業の推進が公が私かで揺れる今日、地域経済にリンクするような同祭の展開にこそ、その方向性が内包されているのではないだろうか。

註

- (1) 『新修大阪市史第十巻』（平成八年）年表による。
 - (2) 大阪商工祭協会「大阪商工祭記念誌」昭和八年（一九三三）以降、同書による場合は前掲何頁と明記する。
 - (3) 小野高裕、西村美香、明尾圭造『モダンイズム出版社の光芒』淡交社（平成十二年）を参照されたし。
 - (4) 前掲六〇頁
 - (5) 前掲三三頁
 - (6) 馬場憲二・菅宗次編著『関西黎明期の群像第2』和泉書院（平成十四年）に小林大東の論考が収録されている。
 - (7) 前掲三五頁
 - (8) 前掲三六頁
 - (9) 『南木芳太郎日記—大阪郷土研究の先覚者—』大阪市史編纂所 大阪市史料第七十七輯（平成二十三年十二月）
 - (10) 前掲三四頁
 - (11) 『大阪毎日新聞昭和一〇年一月二日夕刊』
 - (12) 前掲三六頁
 - (13) 前掲四三頁
 - (14) 大阪商工祭協会『大阪商工祭記念誌』昭和十一年（一九三六）6頁。なお、本文中の昭和八年および十年の商工先学者の紹介記事とも同頁による。
 - (15) 米の仲買商升屋の重鎮にして、科学的合理思考に裏打ちされた「夢の代」を著した町人学者。
 - (16) 両替商にして、貨幣制度の研究「三貨図彙」を著した町人学者。
 - (17) 前掲六三頁
 - (18) 前掲九五頁
- 花街の商工祭協賛の催（初日）
一、北陽新地廓
浄瑠璃や歌舞伎に現れた大阪の女性に扮装した一団を「浪速女粧風

俗」と名付け、商工祭協賛踊の一団を加え、行列屋台と共に二百余名を練出し夜更くるまで廓内を練り歩いた。

二、南地廓

商工祭豊公入城武者行列に因んで北政所以下女臈達の豪華極まる入城の晴れ姿に模して芸妓百余名がきらびやかな絵巻物を展開した。

三、新町廓

商工祭協賛催を「女装時代風俗行列」とし、上古より桃山時代、現代に到る女性の風俗の変遷を示す五〇余名の行列を作り屋台を配備して廓内を練り歩いたが花街の人気の焦点となった。

四、堀江廓

堀江では廓内に商工祭協賛マーク入掛行燈を連ね、女将、仲居、おちよぼに赤前垂をしめさせて、昔の廓情緒を漂わしたが、商工祭典場参拝の仕丁姿に装った百余名が廓内を連日練り歩き花街の人気を沸き立たせた

(19) 前掲一二〇頁

商工祭讃

入江来布（昭和八年）

大大阪と讃ふ秋天高らかに

町人の意気ぞ秋天晴れわたり

秋晴の生駒高嶺ぞ此日かな

白菊に三百年の暖簾かな

行列入城

幢々と馬ン場にさせる秋日かな

浪速町人風俗行列

吹き玉や空のうつろふ秋の虹

昔を今に町人衆そ爽かや

太閤を思ふ

大阪の蜀江錦秋日かな

雲の中秋風樂の聞えけり

「露とおち露と消えぬるわが身哉 なにはのことも夢の又夢」 慶長三年八月十八日
未明伏見城中の終焉を回想

大阪の秋や三百三十年

大阪の曉天間と太閤忌

太閤忌熙々との出るお城より

(20) 大阪朝日新聞昭和八年十一月四日朝

(21) 前掲九〇頁

(22) 前掲四七頁

(23) 前掲九六頁

(24) 前掲二一七頁

商工祭先賢者遺品展覧会目録（於大阪城天守閣）

末吉孫左衛門

末吉孫左衛門画像一幅・徳川家康渡海朱印状一通・安南国王答礼目録

一通・東亜航海図写真一枚・代官所勘定目録三冊・後藤光次書状一

通・河内国丹比郡内御蔵入目録・豊臣秀吉朱印状二通・上杉景勝朱印

状一通・筒井順慶書状一通・伊達正宗書状一通

淀屋个庵

淀屋个庵竹雀之図一幅・淀屋个庵墓碑拓本一枚

山中新六

山中新六画像一幅・山中新六短冊一幅

天王寺屋五兵衛

天王寺屋五兵衛宛采女正書状一通・天王寺屋五兵衛墓碑写真一枚・天

王寺屋菩提寺久本寺本堂写真一枚

石丸定次

石丸定次画像一幅・油斗一個・油尺一本

住友吉左衛門友芳

友芳使用鉾山用尻すけ一個・友栄吹初狂歌一幅

殿村平右衛門

殿村平右衛門茂乗画像一幅・殿村平右衛門茂清画像一幅・殿村平右衛

門茂晴画像一幅・被笠一個・荷菰一枚・御東幸関係書類二十五点・御

東幸御入用金受取一冊・東京御着輩迄分御入用高一冊・東京行在中御

入用高一冊・還幸被仰後之分御入用一冊・用度司渡金高一冊・駅通司

渡金高一冊・宮繕司渡金高一冊・両替引替之分一冊・勘定書一冊・御

入用仕分ケ寄高一冊・仰渡控一冊・存意書一冊・龍駕近々書一冊・請

取書一冊・諸伺書几見込書一冊・来ル廿七日一之宮御幸行御用掛り申

達一冊・御当日御道中清算帳一冊・御東幸行列控一冊・御東幸御用日

記一冊・堂上諸侯諸臣役々月件当渡帳一冊・御東幸御先用前渡勘定帳

一冊・御東幸御道中筋御休留帳一冊・手引加惠一冊・御東幸出納総計

取調帳一冊・御東幸御跡清算控一冊（苗字帯刀御免辞令一通・兵庫

御開港商社取立板倉伊賀守差図所一通・商社肝煎知行五十石帯刀辞令

一通・会計官帰阪辞令一通・通商会社惣頭取辞令會計官一通・民部省

三人扶持下賜辞令一通・通商通為替会社御創立勤中一通・苗字帯刀差

免辞令大阪大蔵省一通・大阪府用達辞令一通・出立順序所各連名一

通・休泊所名帰一通・行政官會計官書面通達書一通・昼宿所名東上一

通）・御内用金御預り証文一通・文化年間米価調節御用金證書一通・

商法局之儀東京府附屬之所云々一冊・証文之事一冊・為替会社開商會

社関係書類一冊・六海商社規則一冊・家法金言録一冊・穴蔵金倉一

揃・殿村平右衛門茂清短冊六葉・殿村平右衛門画像一枚

五代友厚

五代友厚肖像額一面・五代友厚竹之図一幅・松陰時勢觀一卷・五代友

厚肖像油絵額一面

磯野小右衛門

磯野小右衛門写真肖像額一面・磯野小右衛門油絵肖像額一面・磯野小

右衛門銅像一体・磯野小右衛門青年時代写真一枚・有栖川宮熾仁親王

御染筆二幅・三忠臣画幅三幅・仕込杖一本・磯野小右衛門墓碑拓本二

幅

田中市兵衛

田中市兵衛油絵肖像額一面・田中市兵衛書額一面

藤田傳三郎

藤田傳三郎肖像写真一枚・藤田傳三郎座右銘一冊・藤田傳三郎手習帖一冊・藤田傳三郎書翰一通

松本重太郎

松本重太郎油絵肖像額一面・松本重太郎位階服一着・雙軒書幅一幅

広瀬宰平

広瀬宰平画像一幅・広瀬宰平詩集上下二冊・広瀬宰平詩集「偷閑樂事」上下二冊

土居通夫

土居通夫「立志遺衣」一着・鉄斎筆搗米訓子図一幅・南紀遊記二冊・自由紀行一卷・土居通夫富士山図一幅・土居通夫蟹画賛三幅・土居通夫宝珠之図一幅・土居通夫題蟹之図一幅・土居通夫書簡一通・土居通夫蟹図一幅・土居通夫書簡一通

山邊丈夫

山邊丈夫油絵肖像額一面・山邊丈夫壮年時代写真一葉・山邊丈夫墓碑拓本一幅・山邊丈夫書翰二通・航海日誌一冊・写真帖一冊・日本の陶器術一冊・銀製花瓶一基

其他

藤田傳三郎書翰一通・松本重太郎氏等連署状一通・鴻池家古升一個・浪花持丸長者鑑一枚

(25) 前掲九九頁

北原白秋選・作詞岡田千秋・補作佐藤惣之助・作編曲江口夜詩・歌唱ミス・コロンビア

大阪祭の歌

(一) 水の大坂 八百八橋 粋な新町 堀江を抜けて

君と心ブラ 道頓堀へ 恋しネオンの 花あかり

踊れ祝えよ 昭和の栄え 花は浪華の 大大阪祭

(二) 中の島から 地下鉄電車 逢いに北陽やら 浮名の南地

淀の流れに モダンなお城 うつりや浪華の 夜が明ける

踊れ祝えよ 昭和の栄え 花は浪華の 大大阪祭

(三) 伸る商工 景気の波に 出船入船 煙りの街も

今日ぞ照る日の 大大阪祭り 空も輝く 華美姿

踊れ祝えよ 昭和の栄え 花は浪華の 大大阪

(26) 前掲五七頁

図版1~7 「大阪商工祭記念絵葉書」 第一回大阪商工祭（大阪府立中之島図書館所蔵）

図版8 「商工祭マーク」 大阪商工祭協会「大阪商工祭記念誌」昭和八年（一九三三）

図版9 「中山太陽堂クラブ化粧品花自動車」 大阪商工祭協会「大阪商工祭記念誌」昭和八年（一九三三）

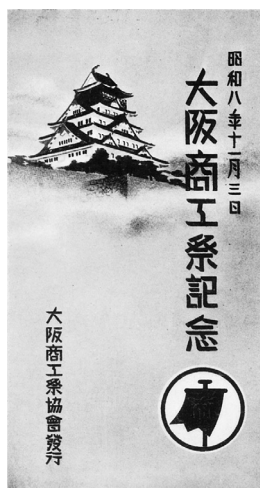
図版10~16 「時代行列風景」 大阪商工祭協会「大阪商工祭記念誌」昭和八年（一九三三）

参考図書

大阪市編『日本万国博覧会と大阪市』昭和四六年（一九七一）
大阪市『新修大阪市史第一〇巻』平成八年（一九九六）



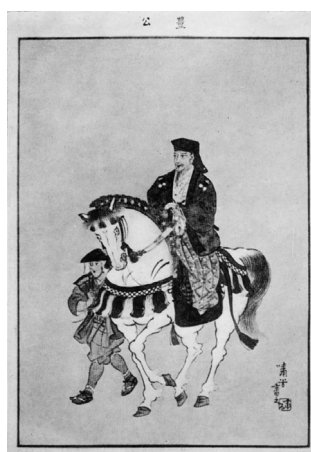
図版 2



図版 1



図版 5



図版 4



図版 3



図版 8



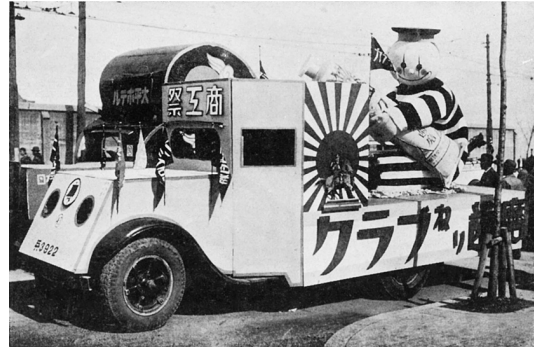
図版 7



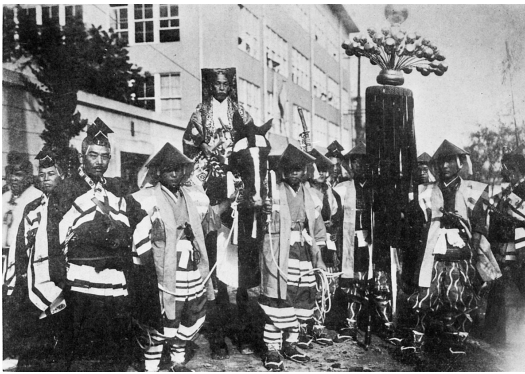
図版 7



図版10



図版 9



図版12



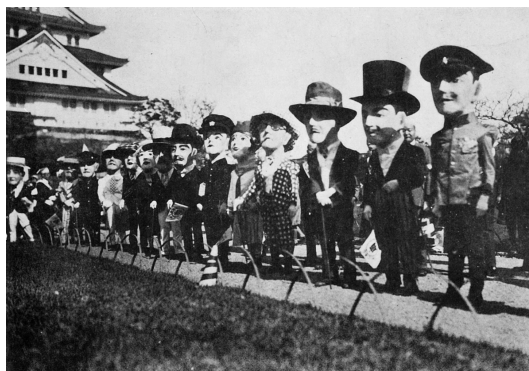
図版11



図版14



図版13



図版16



図版15